

「永山まちづくり推進協議会」会議録 （令和6年度第2回）

○日 時 令和6年12月19日（木） 午後6時00分～午後7時15分

○場 所 永山公民館 2階 講堂

○出席者 ・委員10名（50音順） （欠席者7名）

入谷委員，葛西委員，紙谷委員，工藤委員，桑島委員，島田委員，
高橋委員，土田委員，幅崎委員，村井委員

・アドバイザー4名

旭川市教育委員会2名

社会福祉法人旭川市社会福祉協議会2名

・事務局職員4名

永山支所長，同副支所長，同市民係主査，永山公民館長

・市民生活部地域活動推進課職員1名

○会議の公開・非公開 公開

傍聴者0名

○会議資料

・会議次第

・地域まちづくり推進協議会の在り方について

・令和6年度永山まちづくり推進協議会の予算と活動

・屯田まつりの旭川市立大学との連携について

※当会議録中では，次のとおり表記する。

・永山まちづくり推進協議会を「協議会」という。

1 開会

2 会長挨拶

第2回協議会の開催にあたり，会長から挨拶があった。

3 意見交換

市民生活部地域活動推進課から，資料「地域まちづくり推進協議会の在り方について」に基づき説明があった。各委員からの質問及び意見はなかった。

4 議事

（1）各団体の近況報告及び（2）まちづくり実行委員会の予算と活動状況について

それぞれの実行委員会の事業実施状況や活動状況などについての説明や意見交換を行った。委員や事務局の主な発言は次のとおり。

(委員)

地域のオタスケマン事業ということで、今年度は令和6年6月14日に永山西小学校の3年生、3クラスの児童を全員集めまして講話をしました。中身については市民委員会、ボランティアのこと、町内会のことについて、防犯部長は地域の見守り事業について、交通安全については交通安全部長から約1時間ぐらいお話ししました。

いつも思うんですけど、子ども達は私の顔を覚えてるのかな。今週の月曜日に学校運営委員会で1年生から6年生まで参観授業をずっと見てきたんですけど、3年生以上のクラスに行くと大体みんなびっくりしたような顔をしているんですよ。ですから覚えてるのかなあと思って、一人に聞いたら「覚えてます」と言ってましたね。5～6年生が体育の授業をやっていたんですけど、6年生でも覚えてるのかなと思ったら、やっぱり「覚えてます」という感じでね、大変嬉しく思ったこともあります。オタスケマン事業につきましては、これからも続けていきたいし、それから各学校での、南小、東小、永山小学校でやっていきたいなと思っております。本年度は予算も使わないでそのままとってありますので、事業は以上で終わります。

もう一つ付け加えることとしては、卒業しました地域の冬みち守り隊、いよいよ雪が降ってきましたけど各市民委員会ですとか町内会でも除雪のパトロールをやりたいということで、何件か申し込みがきております。今のところ今年は4地区でパトロールをやる予定であります。これも冬みち守り隊の成果かなと思っております。それから、今年度卒業しましたSOSの第3地区の活動については、今年の9月かな、各協賛企業の方も御活動いただいて、約7万円くらい集まりまして、それを元にして講演会ですとかしていきたいと思っておりますので。今のところまだ行方不明になった方はいらっしゃいませんけど、2人、さっそくLINEで探していただいたということがありましたので、御報告申し上げます。どうもありがとうございました。

(委員)

旭川市立大学の屯田まつり支援事業について、別紙で資料をつけております。この資料は市民委員会の役員会で使ったものを今回出させてもらっています。屯田まつりの旭川市立大学との連携については、昨年度から舞踊パレードと一緒に参加してもらっています。今年が2年目になりまして、事前の踊りの練習、事前学修については、昨年度は公民館の大ホールでやってもらったんですけど、今年は大学の教室のほうでやらせてもらいました。具体的には踊りの指導と、学生と地域の方の交流という大きな2本立ての学修となります。

まず最初に南西市民委員会の方から踊りの指導をいただきました。同じく南西市民委員会の女性部長さんと副部長さんに来ていただいて、一緒に踊りを教えてもらいました。学生はやっぱり若いので覚えるのも早い、2回の踊りでだいたいもうマスターして、次の日曜日に本番を迎えるという形になっています。

この際、踊りに入る前に屯田まつりの歴史についてですね、屯田まつり実行委員会の第3市民委員会会長から講話いただいております。踊りはだいたい小一時間、そのあと交流が30分程度という配分で行いました。第2市民委員会、第3市民委員会、南西市民委員会の3つの市民委員会の役員さんが協力してくれて、10名を超える参加で学生と交流できました。学生が4グループに分かれていますので、グループごとにそれぞれ市民委員会の役員が2〜3人ずつ入って交流しました。学生から質問があったり、地域の方の家族の話、昔自分が小さかったころの話とか、昔はこうだったという話をしながら、永山の良さ、地域の歴史や伝統について交流ができました。

この後、次のページを見ていただけると舞踊パレード当日の踊りの様子が出てきます。昨年度、市民委員会の梯団と市立大学の梯団と2つに分けたんですけど、距離が開いたり詰まったりしてうまくいかなかったものですから、今年は4グループの前に市民委員会のグループがそれぞれ入るというような形で、「市民委員会」「学生」「市民委員会」「学生」とサンドイッチのように実施しました。踊りも揃っていて良かったという評価をいただきましたので、このやり方で良かったんだなというふうに思いました。大学側から、この取り組みを通して地域と触れ合えるのが素晴らしい学修となっている、というお話をいただいたので、次年度も継続していけるのかなと思っています。ただですね、この屯田まつりの市民委員会と市立大学との連携にはもう一つ、行灯づくりというのもあったんですけど、行灯のほうはもう大学では取り組めないということになりまして、第2市民委員会で持っててもしょうがないので、地域の団体で欲しいというのもあってそちらのほうに移譲しました。ですから今後は踊り一本でいく形になるのかなというふうに思っています。学生も大変喜んでいたと聞いていますし、2年生になった、去年踊った学生ですね、「参加したい」という声があったんですが、翌日の週から大学の試験週間に入る、2年生は卒業前で無理しないということで1年生だけの参加になりました。市民委員会としては実行委員会の中に何か市民委員会の役員がいて、昨年は実行委員会のほうで中心にやったんですが、結構大変だったんです。今年は市民委員会役員全員に協力いただいたので全体的にスムーズにいったかなというの思います。

（事務局）

永山地区子どもの学習支援事業では、公民館2階の音楽室を図書館休館日の毎週月曜日に午後3時から5時まで自習室として無料開放しました。旭川市立大学の学生さんがボランティアで自主学習を行っている児童や生徒の見守りを行うとともに予習・復習・宿題の支援も行いました。11月末時点で27回実施してまして、延べ73人の御利用があります。大学生のボランティアさんは延べ56人来ていただきました。毎週リピーターで来てくださっている方もいらっしゃるので、できれば今後も継続して行っていきたいです。以上です。

(委員)

スープの冷めない“きずな”づくり事業は3年前から行っている事業で、栄養相談の結果、低栄養リスクが高い方が永山の住民に多かったですとか、一人暮らしの方や関係性が希薄になっている方が多いというところで、宅配の事業を企画したものです。今年度に関しては3回を予定しておりますが、1回目と2回目が終わりました。まず1回目が10月20日に第2永山団地、3つの町内会が所属するところがございますが、対象者106名、ほか地域住民ボランティアが16名、学生ボランティア6名が参加されました。学生ボランティアは旭川市立大学のお料理研究サークルの方が中心となってスープを作ってください、おにぎりと一緒に配布しております。第2永山団地に関しましては3回目ということで、地域住民のボランティアの方も自主的に活動に参加し、本当にスムーズに開催ができました。第2回目は先月になりますが、11月16日の土曜日に永山3区第2町内会を対象にしております。対象者130名、地域住民ボランティアは町内会役員や民生委員が中心でした。学生ボランティアに関しましては、いつも関わってくださってますお料理研究サークルのメンバーが試験前ということやいろいろな都合で来られないということがありましたので、今回は旭川市立大学4年生のコミュニティ学科の学生さんを中心に呼びかけをしたところ、全部で13名の方が参加してくださいました。第2回目の3区第2町内会に関しても、対象者がとても多く、また、市営住宅と違いまして住宅をまわるということだと思っていたよりは時間がかかりましたが、6グループに分かれ町内会の役員の方が地図など作ってくださって、学生ボランティアもお料理研究サークルの学生とコミュニティ学科の学生をコンビにして2名ずつくらい配置してまわっていただきました。

昨日スープの冷めない“きずな”づくり事業の会議を行いましたけれども、旭川市立短大の先生から、この事業自体が有効だということ、コミュニティ学科とお料理研究サークルと短大の子が中心ですけども学内連携にもつながり、今後の様々な活動にも有効ではないかという感想をいただきました。

また、アンケートでは「とても美味しくて感激した」「出汁がきいていてコクがあった」と好評でした。3回目は2月に、昨年1回目を行いました永山むつみ町内会を対象に開催する予定です。打ち合わせはむつみ町内会の役員の方と実行委員会で1月7日にする予定で動いております。実際に予算に関しましては7万円ということで、昨年よりアップしていただいたのですが、皆さん御存じのとおり、食材等やお米の値上がりがかなりあったというところと、1回目、2回目とも100名以上の方の食材を準備したということで、予算がかなりきついで動いております。ということで報告させていただきます。

それともう一つ良かったのが、今回の対象者130名は町内会に入っていない方も対象にしておりますが、町内会の役員の方がいろいろと協力して下さり、役員の方の地域での発見や課題の発掘にもつながったということ、役員の方から報告いただいたところも大きな勉強になったかなと思っております。

(委員)

永山健康マイレージ事業について報告をさせていただきます。会議は2回開催しております。事業自体はこれも3年前から開催しているところでございますが、永山健康マイレージ事業のチラシを作成し、永山圏域にあります各スーパーや医院、歯科医院など、又は町内会館にチラシを配布させていただいております。9月からはクッキング教室ということで実行委員にもなっている食生活改善推進委員や住民の方、また旭川市立短大の先生や先生から御紹介をいただいた森山メモリアル病院の栄養士による調理実習と、歯科衛生士による口腔の講話を実施し、すべて11月で終わっておりますが、50名の方が参加いただきました。住民からは、歯科受診、10食品群チェック、歯磨き・口腔体操に取り組み、マイレージ事業に今応募していただいています、12月の月末が申し込みの締め切りということになっております。昨年と大きな違いというのが昨年の事業の反省を踏まえまして、歯科受診を必ずしていただく必須の項目としたところ、歯科受診をせずして申込した方が大変多くて、そのことを保健師や私たちからもう一度説明をして、旭川市が実施しております後期高齢者の対象者の方が歯科受診が無料でできるチラシも併せて配布して、受診をしていただきたいということをお伝えしているところです。そういった経過から、昨年よりも申込数というのは若干減っているのかなということを保健師とも言っておりますが、実際の数ははっきりわかりません。今後は、旭川市立短大の学生が作成した栄養レシピをイオン永山店の食料品売り場に商品と共に設置して、積極的に栄養の周知などを行いたいと思っております。1月には抽選会を行いまして、この抽選会に関しましても主に永山にある企業さんとか、お店からいただく予定をしておりますが、協賛企業の商品を配布したいと思っております。また、商品の配布に関しましては主に包括支援センターの職員が手分けして行うのですが、再度口腔栄養チェックを行ってその方自身の口腔栄養の評価を行ったことで事業を終了したいと考えています。以上です。

(委員)

永山南きづな・ほのぼのバザーは、9月の20日に開催しております。当日は「鷹栖共生会」、それと「北かり」「男山」それから「明治安田生命」と連携して、各種販売や健康測定を行って、販売に関しては認知症当事者や障がい者の方に担当してもらいました。売り上げの一部を毎年給料として還元していますが、非常に喜ばれております。同じく赤い羽根共同募金のほうも協力いたしました。当日は2万円以上の募金をいただきましたということで、大変ありがとうございます。参加者はおよそ100名くらいということでたくさんの方に来場いただきました。

(委員)

永山南地区ボランティア養成事業ですが、以前から連携をもっていた永嶺高校のアウトドア同好会の顧問と話し合いを進めてきて、今年も除雪で困っている方に対して除雪の支援を、部活動の時間に限られますけども実施していただけるということで了承を得ることができました。同好会の範囲を超えて地域の除雪支援を学校全体のような取り組みとして話が進められないかということで検討したが、教員自体の業務量増加や取り組みに対しての温度差も多少あったようです。また、事故等へのリスクもあり現段階では難しいという結論となったと聞いております。

（事務局）

永山魅力発見隊、今年2年目の事業となります。今年は11月30日土曜日に永山の小学5～6年生、合計24人に旭川農業高校で「牛の乳しぼり・バター作り」「サツマイモのタルト作り」「木工工作」「ハーバリウム制作」の4つのグループに分かれてもらってものづくり体験をしてもらいました。クリスマスが近いということもありますし、サツマイモなんかは永山で力を入れているということで、そういった企画にしてもらいました。事前の企画ですとか当日の指導は、それぞれ指導の先生が入っているんですけども、ほとんど全て高校生にやっていただきました。高校生は子どもたちと積極的に交流してくれましたし、子どもたちも年上のお兄さん、お姉さんと交流できて、とにかくみんな喜んでくれました。終了後、子どもたち、保護者それぞれにアンケートを実施していきまして、一例を言いますと子どもたちからは「みんなやさしくて教えてくれたり、注意してくれたり、なぐさめてくれたり、面白かったり、いろんな人がいるこの永山魅力発見ツアーを続けてほしい」ですとか「農業高校で優しく接してくれて真剣に教えてくれた高校生を発見しました」、あるいは当日農業高校さんの御厚意で一人お一人カップのアイスクリームをお配りしてその場で食べていただいたんですけども、「農業高校のアイスがおいしいことを発見しました」そういう意見もありました。一方保護者からは、一例を言うと50年前から旭川市民で、10年前から永山に住んでいるというお母さんなんですけれども、「最初は旭川駅も遠いし、タクシーも高いし不便なところだと思っていました。」と。この方凌雲高校に通っていたようなんですけども、「凌雲高校のときも周りは田畑で環状まで何も寄るところもない」と否定的な意見だったんですけど「今は住めば都、街まで出なくて充分。買い物・飲食・飲み屋、土地も広いし車もあるのでとても良いところです。」「子どもたちが当たり前に過ごしている永山ですが、とても良い環境だともっと伝えたいと思いました。」と、肯定的な意見をいただきました。ほかにもいろいろな意見があったんですけどおおむね肯定的な意見ばかりだったので、実行委員会の皆さんもですね来年はどんな企画をしようかと今からワクワクしているような状況です。以上です。

（アドバイザー）

私たちもいくつかの事業に関わらせていただきました。皆さん自主的に取り組んでいらっしゃるということと、永山地域の良いところとして、学生さんとかを巻き込んで一緒に多世代で活動できるところがすごく良いところで、皆さんすごく熱心なところが見られるのでいい事業だなというふうに思っています。また、先日永山の永嶺高校のアウトドア同好会と除雪の依頼者のお宅のマッチングに同行させていただいたんですけれども、除雪と見守り、声掛けもかねて学生さんが訪問してくださるということで、皆さん一人暮らしの高齢者の方が「すごくうれしい」「かわいい」「楽しみにしている」というふうに言ってくださって、こういうところももう少し進めていけたらと今後考えております。ありがとうございます。

(アドバイザー)

私、初めて地域に関わらせていただいているところですけど、ここ永山地区に関しましては、本当に地域活動がものすごく活発だなということが私の印象でございます。「スープの冷めない“きずな”づくり」なんかも先日一緒に参加させていただいたんですけれど、本当に皆さん自主的に、積極的に活動されていることに私もものすごく圧倒されたところでした。「きずな・ほのぼのバザー」のほうにも顔を出させていただいたんですけれども、100名以上の方がですね、ものすごくにぎわっていらっしゃる場所にお邪魔させていただいて、本当にすごいなというふうに感じました。

今後もこういった事業を続けていきながら、私たちも協力できるところは協力させていただきながら、もっと地域の活動が活発にできるようお手伝いできたらなと思いますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

(アドバイザー)

今回まちづくりアドバイザーとして参加させていただいておりますが、特にこれといった事業というのはまだできていないところもございます。ただ、自分はまだ現役の保護者、中学生の子どもがいますけど、ちょっと気づいたところがありまして、やはり永山ってすごく住みやすいまち、街まで出なくても全てが事足りるのかなと思います。最近子どもの数が少なくなってきたこの時期冬になると、外に出てる子どもが少なくなっているのかな、夏に見るとやはり子どもが活発に公園とかで遊んでおります。何が言いたいかというと、やはり見守りなんですよ、子どもたちに対する。危ないことをしていたりする子の中にはいますし、そういうところでオタスケできるような、自分たちもこういう「見守りの出来る人はいませんか」というお願いをするかもしれませんので、またその時は力になっていただけたらなと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(アドバイザー)

私からは2点、お話をさせていただきます。まず1点目なのですが、学校の現状について少しお話をさせていただこうと思います。永山は昔から学校と地域がいろんな連携、協同してやっていたという地域だと思います。ただ、皆さんの中でコロナが終わってからなかなか学校とのつながりができなくなってきたと思われるかと思うんですが、実はこれ、コロナのせいじゃないんです。学校は授業時数っていう時間があるんですけど、千何十時間、昔はそこから余裕をもって授業をやるのが可能だったんですけど、今は先生方の働き方改革を含めてその「余裕時間をとるな」という国の指導なんです。つまり学校としてもやりたくてもやれない状況になってます。で、国のほうから言われていることとお話しますと、学校以外が担うべき仕事というのが出されていて4つございます。一つ目が登下校についてです。二つ目が放課後・夜間などの見回りとか対応について。三つ目が学校で集めたお金の管理について。四つ目が地域ボランティアの連絡調整について。つまり学校は基本的に学校に来てから帰るまでが仕事であって、それ以外は学校の仕事ではないんだということで打ち出されているんです。ですので、例えば見守りするときは昔は「学校のために」という意識があったかと思うんですが、そうでなくて「地域の子ども達が宝だ。その子ども達を見守るためにやっているんだ。」という思いが皆さんあるんだと思うんですね。ですので子ども達のためにという意識でやっていただけたらいいのかなと思います。学校としても今はやりたくてもやれない状況にあるんだ、できることというのは広報だとか子ども達に例えば「出ないかい？」と伝えることはできると思いますけども、参加した後は地域の方が全て見ていくっていうことでないと、なかなか子ども達の参加はこれから難しくなってくるかと思います。総合的な学習の時間で学校カリキュラムにのっとってやる授業がありますので、そこでの連携は今後もできるかと思います。そういうところは私たちがお伝えできると思いますし、それ以外の分でも先ほどオタスケマン事業として西小でやっていることを他の小学校でも、というお話がありましたので、つなぎとか相談に乗らせていただきたいと思います。もう1点が子ども対象の事業って考えたときに、子どもは本当に来たいのかな？っていうのもすごく重要になると思います。大人が考えると固くてつまんないんですよ。地域課題にのっとってやってるんですけど、子どもが見たら本当にこれ来たいと思うのかなっていうのがあると思います。なので、できればもっと子どもの意見を聞くとか、子どもの視点で事業を立てたほうが子ども達が来やすくなるのかな。他のまち協実行委員でこの間聞いたんですけど、実行委員に子どもが入ってその事業を立てたっていうことも聞いています。ですので、子どもを当事者にしてしまうっていうのも一つあるのかなと思いますので、もしそういうことをお考えであれば、私たちお手伝いさせていただいて学校や子ども達とのつなぎをさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(委員)

永山地区の吹奏楽、永山中学校、南中学校、南小学校、志峯高校これ、全国大会に行ってるんですね。で、平成22年のまち協ができたときに、いの一にこの音楽のまちだと、そこの広場で野外ステージをつくったらどうかという話がありました。ただ、隣近所がうるさいからダメよって言われましたけど、でもやはり子ども達頑張ってるもんですから何かをしなきゃならんなど、今思っております。

3 次年度についての取り組み

次年度の主な取り組みについて、委員の主な発言は次のとおり。

(委員)

私は市民委員会を16年やってきて、最近いろんな壁にぶつかってます。「地域のまちづくり推進協議会」というこの名称から私がイメージする「地域」というのはどうしても「町内会」そして町内会を複数束ねる「市民委員会」というのがいわゆる「まちづくり」、そういう考え方がベースになってます。その中で先日も支所長さんに御足労いただいて、今町内会が抱える課題について13の町内会、南市民委員会ですけどもそこで課題を持ち寄ってぶつけ合ったんです。

まあ言ってみれば、ガス抜きなんですよ。その中でどうしても超えられない壁ってというのが、昭和生まれが考えている町内会・市民委員会作りと平成生まれの現役世代、ここには大きな溝があるということは実感しています。ですから町内会の課題の中で、役員の引き受け手がいないですとか、それからイベントをやってもママさんや子ども達が参加しないとか。そういうことってすべからく昭和生まれが考えている町内会づくりでは、ちょっと無理がある、というのが私の考えとなっています。これを崩すにはどうするかということで、ここからうちの市民委員会の一つのテーマとしてやっていきたいことは、昭和生まれ、特に65以降の高齢者、言ってみればパソコンだとかスマホだとか、そういうものへの苦手意識。市民委員会・町内会に対して旭川市は色んなアプリを作って提供してくれています。若い者からすれば、これはとっても使い勝手がいいな、最近のSOSも絡めて旭川市のほうから提供されていた「見守りアプリ」なんていうのもこれは良いなと思うんですけど、でもそれを使いこなしていくべき町内会役員さん、市民委員会の役員さんが、果たしてどれだけ居るのかな。というのが課題でございます。ですから、来年度私がイメージするのは、デジタルデバイドというかそういう世代を何とか最低、LINEぐらいは使えるような、それからSNSのニュースあたりとかを見れるように、そういう形になれるボランティアさん、要するに指導をこまめに、怒らないで、粘り強く教えてくれる、そういう方々をまとめて何とかしてみたいなど。まあこれは、一度市民委員会の中で解決していかなきゃならんですけども、それをやるにも先立つものはお金になってくるわけです。その中でボランティアっていうと昭和生まれは無料、無償のボランティアとい

うイメージがあるんですけども、平成生まれの方々のボランティアはやっぱり有償ボランティアなんですね。そういったお金の工面、どうやってやるのかなというところが私の考えであります。来年以降の市民委員会の考え方のベースになってます。

(委員)

先ほどあった担い手不足、それを解決するのが非常に難しいなと思います。ただ一方、なかなか難しいかもしれませんがA Iとか、自動化できる部分に取り組むことができればC h a t G P Tとか含めて、解決がもっと簡単にできる方法の中にはあるかもしれないので、そういうものの活用も含めて何とか方法を見つけていければと思っています。

(委員)

私が感じていること、一つはまち協自体の、申し訳ないんですけど住んでる市民の方の認知がもう少し上がっていただきたい。それと合わせて、今雪が降っていて、私もできるだけ朝、子ども達が歩く時間に散歩がてら歩くようにしてるんです。そうすると、例えば交差点でボランティアの人が子どもの誘導とかやっている姿を見ていると、ああ、まだ地域でこういう活動をして子ども達を見守りしてくれる人が多くいることを実感しております。ここ1～2年前は子どもたち自身も私が挨拶したらなかなか返ってこなかったんですけど、最近は私が挨拶する前に子ども達が挨拶してくれる確率が少しでも増えてきたかなという感じを受けています。子ども達の交流とか、その見守りをする親御さんたちの交流とか、そういうもう少し若い世代に目を向けた活動を、永山魅力発見隊とか若い世代にももう少し興味を持ってもらえるような、若い世代を理解するにはその親御さんも理解していくというのもあるもんですから、活動の対象ももう少し下げただけでいいなと考えています。

(委員)

屯田まつり、私も参加させていただいたんですけどね、やっぱり大学生が参加することによって、すごい華やかで、こうニコニコして、活気が付いた。そしてほかの事業に対しても大学生がボランティアなどで参加・協力してくれて、非常に将来が楽しみというふうに感じております。当市民委員会としても事業として敬老会を行いまして、104名の参加がありお手伝いの方を入れて150名くらいで盛大に行いました。また、学童の登下校の見守り、防犯パトロールですとか青少年育成部で今月クリスマスのレクリエーションをやったり、そのときも70～80名の子ども達の参加がありまして、この後除雪パトロールということで除雪センターと土木事業所さんのお世話になって1月18日に予定をしております。担い手不足というのはどこを見ても出てくる、非常に寂しいことで

ありますけども、実は私どもの市民委員会、町内で孤独死がありました。たくさん人を集めて参加させる事業がたくさんありますが、行きたいけど行かない、足がない、体が不自由という人が結構いる。また、町内会にも入っていない。たまたま町内の回覧板が止まったよということで私どもに連絡がありまして、見たらその人が倒れていた状態だったんですよね。それで救急車を呼んだんですが、本人が嫌がって「病院は行きたくない」、一人暮らしのお年寄りなんです。一度救急車に乗ったんですけど「嫌だ」「自宅に帰りたい」と言ったので「帰っても一人だよ」と言っても「大丈夫大丈夫」と。それで民生委員さんと包括支援センターさんにお手伝いいただきまして、2日3日見守りをさせていただきまして、その時も部屋が荒れていまして包括支援センターさんにも非常にお世話になって、家の中掃除してあげたんですけどね。前の日も行っているんですけど、次の日、札幌から親族が来るから民生委員さんと一緒に打ち合わせして入って、私救急車呼びました。もう冷たくなっていました。こういう方が、たまたま回覧板が止まったもので見つけたんですけど、町内会に入っていない、回覧板もいらない、回覧板もネットでやる時代となったとき、非常に問題があるなという感じをしております。岩見沢でも一週間雪で孤立状態だというような話もあります。事業に参加できるお年寄りは非常に幸せなんです。けど、行きたくないというお年寄りが結構いるなということで、非常にどうしようかと思っています。そういう方を見落とさないような近所付き合いをしなきゃいけないなという感じはしております。

（委員）

今永山では3分団7地区で70名が活動しておりまして、消防本部と永山消防後援会の指導のもと、先ほどのお話ではないですけど昭和世代と平成世代の団員の中で、こういろいろとぶつかり合いながら活動している状況でございます。現在は災害出動以外の活動は分団によるものとなっており、全体としては地味ではありますが、春秋に防火広報、それから秋の防火パレード、消防車が何台かまわっているのを見てもらえるかなと思うんですけども。それからコロナの関係で中断していました高齢者訪問。ほのぼの訪問といいまして、市の事業になりますけれども一人世帯のところの防火に対しての活動をやっているところでございます。また、この冬は定期的な除雪活動、消火栓の除雪活動を行っている状況でございます。実際に消防団として地域住民の方と一緒に何か活動しているというところは、私どものところでは今まで記憶がございません。これからどういうことができるのかも、それぞれ話し合いだなと思っています。一点自慢ではないですけど報告させていただきますのは、今年7月に消防総合大会がございました。これは全道の消防団が集まって消防の技術を競う大会でございます。想定された火災・消火の活動になりますけれども、今回私どもの28分団が旭川代表として出場してまいりまして、全道優勝することができました。平成22年にも全道優勝しておりますけども、少ないチャンスをものにして2回全

道制覇することができたということでございます。今年10月12日には全国大会、宮城県で行われましたけどもそこにも出場してまいりました。旭川市消防本部として永山地区の消防団は大変優秀だというふうに言われておりますので、今後も活動を頑張りたいと思います。課題としてはやはり団員の確保が喫緊の課題となっております。どうぞ御紹介いただければと思いますので、よろしく申し上げます。

(委員)

先ほど委員が言っていたAIについて、この間も第3市民委員会で研修会がありまして、そこに市のアプリについて、見守りのアプリも入ってますし除雪のアプリも入って大変便利です。最低でも町内会長さんとか市民委員会の役員さんとか、それから町内会の総務部長さんとか50人くらい来ていただいて、市の方から説明してその場で入れてもらったんです。そういう取り組みをしても、スマホは持っているんだけど使い方が分からないという方が結構いらっしゃると思うんですよね。その中、教えに行くボランティア、結構良いアイデアだなと思って聞いておりました。またこれもやろうかなと思っております。

それから孤独死の問題ですね。私が町内会長のときね、3人ほど孤独死に立ち会って、町内会入ってない方なんですね。発見するのが遅かったということがありまして、新聞が溜まっていると、周り近所の人が見て私のところに知らせてくれて。家に行ったら入れないもんですからね、無断では。警察を呼んで入っていただいたら亡くなって1週間経っていた。本当に悲惨だなと思って。町内会はお互いに助け合いながらそういう見守りも必要かなということで、いろんな改革はやってきたんですけど、若い人はなかなか入らないし、年寄りの人は役員になりたくないから抜けていくっていう形が多くなってきているんですけど、何とかその辺を解決したいなと思っております。

もう一つはまち協についてですけども、第1回目のときから永山の協議会はずいぶん活発なところだなと言われたんですけど、はじめに「自分たちのまちをなんとかしたい」「これをやりたいということを全部書き出してくれ」ということで書き出したんですよね。例えば永山まち協に予算1千万持ってきたらいろんなことができるんじゃないかとか、上川総合振興局もあるからL特急を永山駅始発にするといいのではないかと、それから国道39号線の真ん中に市電を通したらいいのではないかとですね。そういう夢みたいな話がいっぱいあったんですよね。その中から選んで今までやってきたというのが、経緯だと思うんです。他のところの市民委員会ですとかまち協の話を聞いても大体マンネリ化になっているのかなと感じているんですけどね。永山の場合はいろんな夢があって、永山のお土産を作ったりとか、そういうことをしてきたんで、今まで活発にきたのかなというふうに思っているんです。永山地域の問題も解決しな

がら進めたらいいかなと思っておりますので、どうぞまた皆さん永山地区がますます発展するように協力をお願いします。

（事務局）

次年度の取り組みのところで先ほど貴重な意見をいただきました。まち協の認知度を上げる取り組みですとか、デジタルが苦手な方に教えてくれるボランティアですとか、あるいは孤独死ですとか事業に出られない人をどうするか、見守りをどうするかということですね。次年度に向けてですね、どのようなことができるのか。期間は短いですが、皆さんと一緒に考えていきたいなというふうに思っております。

4 その他

事務局から令和7年3月に実施予定の第3回協議会について案内。

5 閉会

副会長から閉会の挨拶があった。